

① はまなか

# 議会だより

NO 136

令和3年4月15日発行



## 3月定例会

予 算 議	茶内駅前公衆トイレの建設費は	4P~9P
	委員会レポート (総務経済常任委員会)	11P
一 般 問	6人の議員が町政を問う	12P~17P
	真善美 (澤山 陸斗 さん)	18P

雪も解け春らしくなった  
4月6日に霧多布小学校の  
入学式が行われ、新一年生  
6人が希望あふれる第一歩  
をふみ出しました。ピカピカ  
のランドセルを背負い、こ  
れから始まる小学校生活に  
目を輝かせていました。  
勉強にスポーツにがんば  
れ！新一年生！

表紙の写真

# 浜中診療所 新体制でスタート

## 電子カルテを導入し、病診連携を強化

**3月**  
**定例会**  
10日～17日

浜中診療所は、新たに所長として加藤 励<sup>かた</sup>医師を迎え患者に寄り添い、地域に密着した医療体制の確立を目指します。

加藤医師は、地域医療の構築に取り組まれた故道下医師の著書を読まれ、その姿勢に共感され、ご自身も地域医療の充実を目指し、自治医科大学に入学され、医師免許を取得した後、さまざまな病院で経験を積まれてこられました。

この度、小川医師の定年退職を機に浜中町の医療を担って頂くことになりました。また、新たに矢野レントゲン技師を迎えさらなる地域医療の充実が図られます。

なお、医師一人体制であることから、北大第二内科と東北北海道病院から医師派遣の協力をいただくことと、厚岸町との協定による夜間・休日の救急医療体制は引き続き確保されます。

令和3年第1回定例会が3月10日から、8日間（休会2日含む）の日程で開催されました。町長から町政執行方針、教育長から教育行政執行方針が示され予算審議など活発な議論が展開されました。

今定例会には、令和2年度の補正予算をはじめ、令和3年度当初予算および条例の改正など25議案が上程され、いずれも原案どおり可決しました。

また、一般質問は6人の議員が登壇しました。



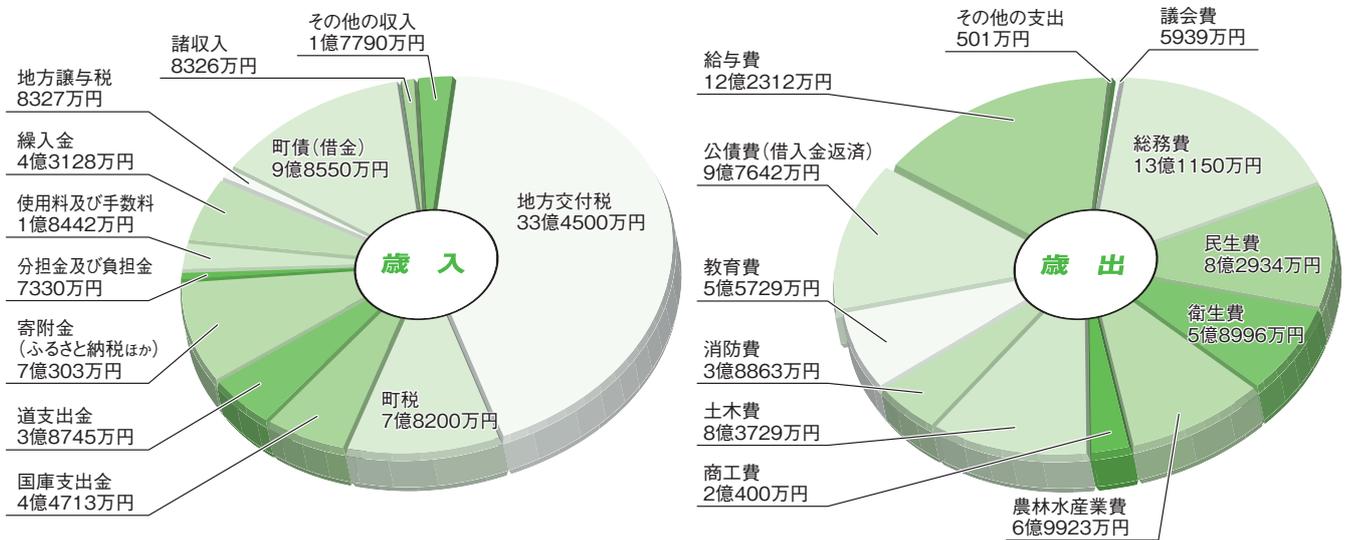
左から中山事務長・矢野レントゲン技師・加藤医師・上田看護師長

# 予算の概要

令和3年度の一般会計予算

## 総額76億8118万円に

### 令和3年度一般会計内訳



### 令和3年度各会計の当初予算

会計別	歳入歳出予算額		増減率 (%)	一般会計からの 繰出金			
	令和3年度	令和2年度					
一般会計	76億8118万円	109億7974万円	△ 30.0				
特別会計	国民健康保険	12億4496万円	11億6882万円	6.5	4553万円 ←		
	後期高齢者医療	7903万円	7864万円	0.5	2244万円 ←		
	介護保険	4億6844万円	4億5595万円	2.7	7178万円 ←		
	浜中診療所	2億6764万円	2億6486万円	1.0	1億4910万円 ←		
	下水道事業	4億8181万円	4億3486万円	10.8	2億6386万円 ←		
合計	102億2306万円	133億8287万円	△ 23.6	5億5271万円 ←			
企業会計 (企業会計とは、民間企業と同じような経理を行う会計です。)							
	収入	支出	収入	支出	増減率 (%)		
水道事業	収益的	2億1182万円	2億1182万円	1億9625万円	1億9625万円	7.9	
	資本的	3億2020万円	3億7973万円	1億990万円	1億5861万円	139.4	5766万円 ←

※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額5953万円は、過年度分損益勘定留保資金などで補てんする。

# 予算審議から

## 茶内駅前公衆トイレの建設費は

**問** 茶内駅前が、町営バスとJRの乗継拠点となることから公衆トイレを建設するもので、建設費が3500万円と大変高額となっている。建設にあたっての基本的な考え方は。また、設計積算根拠と設備の内容、清掃業務は。

**答** 公衆トイレ建設のコンセプトとして  
①JRや自動車などで本町を訪れる人々の玄関口であり、浜中町の顔として相応しい建物であること。  
②子どもからお年寄り、障がいのある人や乳幼児連れなどすべての利用者ニーズに対応すること。  
③建設場所が新興住宅地の一角でもあり、景観に配慮した外観であること。

④冬期間、暖をとりながらバスなどの待ち合いができるスペースを確保すること。以上4点を基本に必要最小限の規模で設計した。また、公共事業の設計では、道が示す工事単価や国の共通比率を用いることから民間事業より割高となる。施設面積は約45㎡で、男

子トイレ（小2・洋式1）・女子トイレ（洋式2）・多目的トイレ（洋式1・オストメイト対応）・ウォッシュレット完備・暖房完備・バリアフリー仕様・風除室およびホールからなる。清掃は業務委託し毎日実施する。

## 霧多布湿原センターの改修は

**問** 改修費66万円と施設用備品費77万円の内容は。

られている。

1階エレベーターホール

付近に施設できるタイプの

授乳室を設置する。

備品は、厨房の冷凍冷蔵庫

66万円と、ロビーチェア

11万円である。

## 住民センターの改修は

**問** 公の集会施設改修工事費8千万円は、旧茶内第一

小学校を住民センターとして活用するための費用であるが、地域住民への説明や

改修工事費の内訳など詳細

説明が無い中での予算計上

であり、事業費の妥当性の

判断材料が示されていない。

体育館を含め、施設全てを

改修する計画であるが、利用世帯数・人数を考えると他の公の集会施設との公平性に疑問があり、閉校校舎の活用を考慮しても改修事業費に懸念が残る。改修内容ごとの積算した事業費を示し、再度地域住民との話し合いが必要と思われる。議会への説明も求めたい。

**答** この事業は、既存の住民センターの老朽化から地域と協議検討を重ね、閉校校舎を活用することで合意した。

その後、施設の利用計画など地域要望を聴き取り、昨年9月に設計予算を計上し進めてきた。

ただ、設計積算後に地域住民との協議および議会へ説明する機会が持てないまま予算計上した。

今後、予算執行を一時停止して積算内容などを示しながら地域住民と協議する。

また、住民との協議状況や改修内容を議会へ説明をする機会を設けたい。

## ルパン三世活性化事業は

**問** 旧勤労青少年ホームにあったモンキー・パンチコレクションが文化センターに移設されたが、イベントの開催は。

プロジェクト運営費補助1598万円の内容は。また、コロナ禍でのルパ

ンフェスティバルの開催は。

**答** 移設したコレクションは、4月にオープニングセレモニーを開催した後に一般開放する。

補助金内訳はセレモニーに176万円、フェスティ



リニューアルされたモンキー・パンチコレクション

## 茶小体育館の改修は

バルに938万円、管理費は189万円、臨時職員賃金で65万円、仮想店舗補修に55万円、街頭サインに65万円、その他10万円となっている。

フェスティバルは開催予定であるが、最終判断はプロジェクトで協議される。

**問** 茶内小学校屋内体育館床改修費4820万円の内容と工期は。

工事中の体育活動は。

**答** 現在、体育館の床が浮いている状況で、床全面を改修し、床下に生コンを打

設し湿気を防止する。さらに、床下の換気設備も交換する。工期は9～11月末までの3カ月を予定。  
この間の体育活動は、農業者トレーニングセンターの使用を考えている。

## ルパン三世ペイ電子カードは

**問** 地域経済活性化促進事業補助500万円は、商工会が進める電子マネー事業への補助であるが、その内容と利用者のメリットおよび周知方法は。

内容は、チャージ（カードへ入金）時に2%（1万円で200円）が上乘せされるもので1%分を町が補助する。

**答** これまで加盟店で支払時に使用していたルパン三世カードでのポイント還元に変えて、町内決済カード（ルパン三世ペイ）での還元方法に改める事業への補助である。

元率がアップし、小銭の扱いがなくなり買い物がスムーズになる。また、非接触での支払いからコロナ感染症対策にもなる。  
商工会が利用者説明会を行い、その後6月1日から運用する予定。

## リサイクル活動 奨励交付金の今後は

**問** 奨励交付金352万円は、ゴミの減量化と資源物リサイクルを目的にした各自治会・町内会への補助である。売払収入が減少しているが、今後の見通しは。

**答** これまでは、売払収入

が交付額を上回っていたが、2年度は買取単価が下がりが収入が大きく減少した。交付額は、基本割・戸数割・回収割で算出しているが、今後も減少が続くようであれば交付割合などの見直しも検討したい。

## こんぶ漁場周辺への 拡声器の設置は

**問** 防災行政無線屋外拡声器を824万円で設置するに至った経緯と設置場所および設備内容は。

**答** 設置の経緯は浜中・散布漁協からこんぶ漁中の災

害防止に向けた屋外拡声器の設置要望があり、昨年9月に漁業者の協力を得て、こんぶ採取時の防災情報訓練を実施した。

訓練内容は、屋外拡声器の音声の状況や緊急速報エ



アゼチの岬に設置されている屋外拡声器

リアメールが受信できるかの調査である。その結果、拡声器からの音声が届かえず、エリアメールも届かない圏外の場所は、藻散布から厚岸寄りの立岩・涙岬海域周辺であり、ここを最優先に設置を考えている。

ただ、商用電源がないのでソーラー電源を設置することになり通常は400万円程度で設置可能であるがソーラー設備の関係で、工費は824万円となる。

なお、浜中漁協海域のこんぶ漁場である嶮暮帰島南側（キカイバ周辺）は、調査時にこんぶ採取漁船がいなかったため、再調査を検討したい。

## バイオマス都市構想作成は

**問** バイオマス発電施設の建設には、多額の経費を要し電力の買取価格も下がっているのが現状である。671万円の予算で作成を委託するバイオマス都市構想の目的と将来展望は。

**答** 脱炭素社会、廃棄物、環境問題が課題になっている中、バイオマスの有効性を検討する時期になっている。その実現を目指すために国の補助制度がある。町

や民間が事業補助を受けるには、バイオマス都市構想の策定が必要であり、既に近隣2町村で策定されている。

また、売電主体ではなく地産地消を基本とし、廃熱など副産物の有効活用も考えての構想策定となる。

将来的には、生ゴミや水産加工廃棄物などの減量化に向け、関係団体と協議検討していきたい。

## 絵画展示室の設置は

**問** 文化センター工事請負費635万円の内容及今後雨漏り対策は。

**答** 教委管理課が新庁舎へ移転したことで、空いたスペースを活用し、絵画展示室を設ける改

修工事。その内容は、展示用の壁を設け天井を張替え、照明のLED化とスポットライトを設置するもの。工事費は550万円。工期は4月下旬から7月下旬を予定。

館内の無線LAN構築に向けたWi-Fi設置工事に85万円。

雨漏り対策は、令和5年度で大規模改修工事を計画している。

## ふるさと納税の実績と今後の取り組みは

**問** 令和3年度ふるさと納税額7億円を見込み、返礼品額2億1千万円の予算であるが2年度の実績は。

また、この制度は自主財源対策だけが目的ではなく返礼品として地場製品の消費拡大を図る中で浜中町の魅力を発信し、地域や産業の発展に繋げることが重要と考えるが、なお、事業所のホームペー

**答** 令和3年2月末時点での実績は、納税件数3万8

367件で納税額6億7821万円である。

また、仮にふるさと納税制度が廃止となっても、返礼品として培ってきた地場製品の品質の良さは広く認知され販売促進に繋がるものと考えている。

現在、返礼品を扱っている17事業所のうち11事業所がHPを開設している。開

## 森づくりの推進は

**問** 豊かな森づくり推進事業補助が前年比増額の499万円になっているが、事業内容が増えた理由は。

また、町有林の整備は計画的に実施されていると思うが、植栽後の管理状況は。齋場と衛生センター周辺が伐採されたが、跡地の植栽計画は。

**答** 豊かな森づくり事業は民有林の造林事業推進と所有者の負担軽減を図る目的で、国が68%・道が16%・市町村が10%を負担する。

設に対する支援制度は無いが、ネット販売の促進からも相談・助言は考えたい。

特産品開発への支援は、地域経済活性化促進事業補助(上限200万円)で対応する。

観光体験型返礼品の開発は、観光協会も交え協議検討中である。

所有者の負担は、実質6%となる。

令和3年度は、昨年より4ha多い約25haの申し込みがある。森林面積の増加に繋がることから今後も着実に取り組んでいく。

また、町有林の管理は、植栽後3~5年下草刈りを行い木の成長を監視している。被害木が発生した場合

は森林保険を使い補植するなど対応している。齋場と衛生センターの植栽は、カラマツを予定しているが、中間にはトドマツ

を植え常緑樹による効果も考えている。齋場の周辺には、花も観られるようにエ

ゾヤマザクラ、ヤマモミジを植えたい。

## 公営住宅の整備内容は

**問** 公営住宅長寿命化型改善工事2億6500万円と、外構工事実施設計業務委託料490

万円の内容は。また、公営住宅新築工事2億5000万円の内容は。

**答** 改善工事は2年度実施した霧多布G団地の2棟目で、1棟目と同じ工法で改修する。

外構工事実施設計は、同団地の駐車場などを整備するため。

また、新築工事は茶内公

営住宅2階建て1棟8戸で、工期は6~2月を予定している。



改修される2棟目(霧多布G団地)

## 学校給食費の無料化は

**問** 給食費を無料化した経緯は。

**答** 町政の基本方針の一つに「若い世代への子育て支援の充実」を位置づけてい

る。支援策として、医療費の無料化、ひとり親世帯への経済的支援、さらに保育所

の給食費無料化など多くの施策を推進してきた。

こうした中で、子育て世代を対象にしたアンケート調査では、就学児を持つ保護者で45・4%、未就学児の保護者では46・2%が支援を求めており、負担軽減を図る新たな施策として小・中・高等学校の給食費を無料化することにした。

## 新川河口工事の完成時期は

**問** 新川河口の実施設計委託料430万円の内容は。

**答** また、導流堤工事は、毎年5千万円の予算であるが、早期完成を図る考えは。

**問** この事業は、当初5年程度で完了する予定であったが、矢板を抜く工事から進めたので時間を要した。今回の実施設計委託は、右岸の古い矢板を抜かず、その外側に新たに矢板を打

ち込む工法を採用した場合、川幅が狭くなることによる洪水対策を含め計算するもの。

工事費5千万円は、過疎債の許される範囲内での実施としてきたが、今回検討する案で行うことになれば撤去や仮設の費用も無くなるため、改修工事の促進が図られる。実施設計を行い早期の完成を目指したい。

## 浜中町子ども発達支援センターの開設は

**問** 補助金250万円は、町独自の支援センターを開設するものであるが、これまでの経緯と利用者数および開所日数は。

**答** 前年度までは、厚岸の支援センターへ117万円を負担し、地域の活動支

援センター内で週1回開所していた。

以前から開所日数の増を要望されていたが、厚岸の受け入れ人数にも限界があり、自前のセンター開所に向け事業所を探してきた。令和3年度から、厚岸の医療法人田中医院が、地域の活動支援センターで開設する運びとなった。

利用者数は、未就学児が6人・就学児童が11人の17

人である。また、開所日数は祭日を除く月曜～金曜日、児童発達支援の改善が図られる。

## へき地保育所の遊具・施設改修は

**問** 遊具の更新工事173万円と施設改修工事2300万円の内容および工期は。

**答** 遊具は、浜中保育所のシーソー2人掛け116万円と雲梯(半円形のはしご状の物)57万円である。

施設改修は、散布保育所の屋根と外壁の張り替え工事、工期は9～11月の予定。



早期改修が望まれていた散布保育所

## 「ハイツ野いちご」への運営支援は

運営継続支援の考えは。

**問** 「野いちご」は、処遇改善を図り職員確保に努めているが、人手不足から満床（50人）にできない状況が続いている。また、コロナ禍でショー・トステイ・デイスサービス事業収入も減少し、積立金を取り崩して運営している。社会福祉法人浜中福祉会補助金3178円の内容と

**答** 運営状況は厳しい。平成26年に約3億4千万円あった積立金が、令和2年度末には約1億円となる見込みである。要因は、満床に満たないことからの介護報酬収入の減に加えて時間外手当を含む人件費の増、さらにはコ



新設された役場前バス停

## 町営バスの利用状況と課題の検証は

ロナ禍による事業収入の減少がある。町は、補助金を前年比約700万円増額して法人の運営を支援している。補助金の内訳は、処遇改善費用など介護施設運営分として2500万円・奨学金など介護職員確保分とし

て280万円・施設補修費が193万円・法人運営費が205万円である。今後とも、法人として経営改善に取り組むことは当然であるが、町も一体となって「野いちご」の運営継続に取り組んでいく。

**問** 昨年10月から町営バスの運行がスタートした。各路線の利用状況と運行上の課題や利用者などからの意見は。

**答** 2月末まで5カ月間の利用状況は、霧多布厚岸・散布線（6往復）が2233人、霧多布湿原線（6往復）1217人、茶内線（デマンド水・金）154人、浜中線（デマンド火・木）179人、霧多布湿原線（デマンド土日・祝日）54人で、合計3837人の乗車実績である。運行にあたっては、その都度事業所と協議・検討を重ねているが、課題の多くは降雪時の対応である。役場新庁舎前のバス停は、当初計画（避難道路完成後）を前倒して、4月1日から新設する。また、要望のある路線経路の変更は、地域公共交通活性化協議会の中で検討協議をする。

## その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
防災無線改修工事（無線通信法改正による更新）	7620万円
町営バス運行委託料（5路線）	4389万円
保育所給食に要する経費（常設・へき地保育所分）	3865万円

## その他の予算関連 審議(抽出)

- \* 地域振興補助の内容は
- \* 結婚新生活支援事業補助の内容は
- \* ゆつゆ改修の内容は
- \* 介護職員初任者研修委託今後の方向性は
- \* 緊急通報システム業務委託の内容は
- \* 看護師等修学資金貸付金の内容は
- \* 一般廃棄物処理計画の概要は
- \* 新・農業人フェアの実施状況は
- \* 農業経営技術研修受入事業の内容は
- \* 霧多布港湾橋梁点検委託の内容は
- \* 国定公園化促進期成会の今後の活動は
- \* 観光看板設置の内容は
- \* 町道維持補修工事の促進が必要では
- \* 津波CG作成の考えは
- \* 防災無線改修工事の内容は
- \* スクールカウンセラーの実績は

## 条例の制定を議決

□ 浜中町議会議員及び浜中町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例

公職選挙法の改正を受けこれまで市議会議員選挙および市長選挙のみ公費負担が可能であったが町村議会議員選挙、町村長選挙でも公費負担ができるようになった。

公費負担の主な内容は「選挙運動用自動車の使用」「選挙運動用ビラ作成」「選挙運動用ポスター作製」となっている。

□ 浜中町景観計画策定委員会設置条例

地域の景観特性や景観形成上の課題など地域の実情に即した景観づくりが求められている。

本条例は、北海道からの景観行政団体移行を見据え、本町の特性を活かした景観づくりのための景観計画策定委員会」の設置に必要な事項を定めるもの。

## 議員定数等調査 特別委員会を設置

議員定数などを調査する特別委員会の設置を議員発議で提案し全会一致で可決した。これにより、議長を除く11人の議員による特別委員会を設置し、閉会中の継続審査とした。

議会閉会后、委員会を開催し、委員長、副委員長の互選を行った。

委員長 中山 眞一  
副委員長 落合 俊雄

## 議会を傍聴してみませんか!

3月10日から始まった令和3年第1回定例会は、役場新庁舎の議場で行われました。新しい議場は、最新の議場管理システムを導入しており、2台の大型モニターや、マイクシステム、空調管理など快適な環境で白熱した議論が交わされました。



傍聴席もバリアフリーとなり、どなたでも傍聴することができます。傍聴する際は役場3階議事事務局へお越しいただき、受付をするだけでOK。間近で臨場感ある議論を見ることができます。

また、1・2階ロビーのテレビでも議会のライブ中継を行っています。役場にお越しの際は是非ご覧ください。

# 委員会レポート

## 3つの所管事務調査を実施

千島海溝沿い巨大地震による津波シミュレーション、防災対策、婚活支援の状況の調査を実施し、3月定例会で報告。

### 総務 経済 常任委員会

#### ○千島海溝沿い巨大地震による津波シミュレーションについて

##### ◆調査の概要

国が公表した千島海溝沿い巨大地震による津波シミュレーションについて、巨大地震モデルの概要、今後の津波対策について調査。

##### ◆調査意見

シミュレーションでは、道のモデルより最大津波高で12・5m減少、到達時刻（琵琶瀬湾）も8分遅い予想となっている。この結果を受け、道は津波浸水想定を公表することになるが、液状化現象よる地盤沈下や電柱の倒壊などでの交通網寸断が想定され、早急にハザードマップや地域防災計画、津波避難計画の見直しが必要である。

#### ○防災対策について

さらに新たに町が作成する津波防災地域づくり推進計画などは、避難困難地域住民の命を守る施設整備を最優先に捉えた計画とすべきであり、南海トラフ特措法と同様の財政支援を、国や道に強く求める必要がある。

##### ◆調査の概要

・丸山散布避難道整備計画  
丸山散布避難道整備計画は、湖沼公園に隣接する高台に車で避難するルートの実業実施に向けた取り組みを開始している。

・MGロード交差点のT字路化、複線化

MGロード交差点のT字路化は、用地測量が行われた。

複線化は、現在の道路敷

地では2車線化は難しいことから、現在の歩道を撤去し、幅の広い路側帯を設置して、通常は1車線走行であるが、2車線分の幅を確保する車道として整備する。

・霧多布高校を避難場所として活用することができ

るか  
津波浸水予想では、屋上の高さは、安全水位より低い。校舎は、夜間、休日は施設されているが、避難場所としての活用を見据え地震解錠ボックスを設置するとしている。

##### ◆調査意見

・丸山散布避難道整備計画は、概算工事費1億5千万円程度、実施設計等の事業費は2千万円程度であり、地域住民の期待にこたえるべく、有利な財源を模索し令和3年度の実施設計、令和4年度の工事着工、完成を希求する。

・MGロードの改修は、北海道の事業である。全体事業費は8億円程度が見込まれ、道の予算配分にもよる

ため完成時期は未定である。道への要請活動を積極的にを行い、早期完成を目指すよう要望する。

・霧多布高校の高さが道が公表する予定の津波浸水想定安全水位をクリアできるか見極めてから、詳しい調査を早急に進めることを要望する。

#### ○婚活支援について

##### ◆調査の概要

婚活支援の現状把握に努め、今後の展望を探る

##### ◆調査意見

婚活支援は、個別にサポートする会員制の婚活事業を進めるとのことである。登録初期費用のほかサポート費用、成功報酬などが加算されるが、産後継者のみならず町内独身者を対象とした婚活支援策として登録初期費用を全額補助する婚活支援補助制度（仮称）の創設を検討すべきである。

# 一般質問

川村 義春 議員



## 問 新型コロナウイルス ワクチンの対応は

## 答 ワクチン接種は 5カ所で集団接種

**川村** 新型コロナウイルス感染症のワクチンを優先的に接種することになる本町の事業所と医療従事者数は。

**町長** 浜中診療所32人、浜中消防署26人、歯科・調剤21人、町保健師2人が優先接種対象者で81人である。

**川村** 4月からの接種となる高齢者と一般人の接種場所はどこか。スタッフの確保は。接種に係る町の費用

負担はあるか。

**町長** 接種は、集団接種方式とし、会場は、総合文化センター、散布漁村センター、茶内農業者トレセン、浜中と姉別の農村環境改善センターの5カ所を予定。ワクチン接種は、診療所の医師と看護師に対応いただく。接種体制などの経費は国の全額負担となる。

**川村** 事前に送られる接種券と予診票の記入は高齢者には負担となるので、接種時は、医療スタッフが寄り添って対応すべきでは。また、施設への訪問接種は。

**町長** 予診票の確認は、医療従事者や保健師を配置して予診票記載の支援をした。施設入所者へのワクチン接種は浜中診療所の医師が行う体制となる。

**川村** 本町に住民登録のある接種対象者が進学や出稼などで本町にいない人への接種手続きは。

**町長** 本町から届く接種券を接種対象者に送る。接種対象者は、住んでいる所在地の役所に行き、接種を受ける住所地外接種届けを出す

すと共に、住所地外接種届け出済み証の交付を受け、その書類と接種券を現在住んでいる医療機関に持参することで接種できる。

**川村** ワクチン接種後の副反応への対応は。

**町長** 副反応の症状がでた場合は、症状緩和のための注射、気管支拡張薬の吸入、点滴、酸素吸入などの処置を医師が行う。

なお、症状の改善が見られない場合は、迅速な救急搬送が可能となるよう浜中



コロナワクチンが保管されるディープフリーザー

**問** 行政改革大綱の重点と機構改革は

**答** 基本視点を据え推進機構改革は次年度で

**川村** 行革大綱の重点は。

**町長** 人口減少社会への対応、地域と行政の共創、行政の確な運営の3項目を基本視점에効率的、効果的な行政運営に取り組む。

**川村** 機構改革は。

**町長** 次年度に、事務分掌の再編と課や係の新設統廃合などを進めたい。

# 一般質問

秋森 新二 議員



問

## 移住・定住促進支援の 拡充は

答

## 両漁協と連携し 支援策を検討する

**秋森** 今後10年間の町政運営の指針となる「第6期浜中町まちづくり総合計画」がスタートしており「地域を支える地場産業の振興」「災害に強いまちづくり」「若い世代の子育て支援の充実」の3本の柱からなっている。平成26年にスタートした「地方創成総合戦略」では、地域産業の振興を中心に若者の定住対策と出生率の上

昇への適切な対応が重要とされている。本町における漁家戸数は昭和60年から減少が続き、平成27年には521戸とピーク時の7割まで減少。従業者数も昭和60年の2252人から平成27年には1035人まで減少しており、中でも昆布漁家の減少が著しい。高齢化などの理由により、漁業を離れる人が今後10年間で相当数見込まれることから、新規漁業者の受け入れ制度の確立が急務である。

イターン漁業者の定住・独立を支援するため初期投資資金や海技免許の取得費用、家賃、住宅整備資金など経済面でのサポートが必要である。

また、漁家の次男、霧多布高校の卒業生にも適切な支援を行うことで町外流出に歯止めがかけられると思うが。

**町長** 水産行政における後継者対策として浜中町漁業後継者就業交付金事業を実施している。

今後も町・両漁協で構成



操業中の昆布漁船

される「浜中町水産振興連絡協議会」を中心に初山別村の「親方制度」などの先進事例を参考に、さらなる後継者対策を検討していく。

**問** 子育て支援の拡充は

**答** 求められる支援策を検討していく

**秋森** 松本町政が進めてきた、全産業の後継者交付金制度や高校生までの医療費の無料化など、画期的な政策、また子育て支援も進み、

一定の成果が現れているが少子化など人口減少にプレキがかかっている。人口減に歯止めをかけるべく、出産祝い金、入学祝い金、高等学校就学支援など新たな子育て支援策の創設は。

**町長** 出産祝い金などすでに実施している事業もあるが、多くの声を聴き、求められる支援策を検討していく。

# 一般質問

加藤 弘二 議員



**加藤** 浜中町の昆布の漁獲量の推移を示して欲しい。

**町長** 昆布が一番採れたのは、昭和37年で5400t、令和元年には1334tである。

**加藤** 漁業者の推移を示して欲しい。

**町長** 平成元年の組合員数は浜中漁協574人であったが現在は333人に。散布漁協は197人であった。

が145人に。合わせて478人となっている。

**加藤** 漁業者の数は激減している。新規に漁業を目指す人に対し、両組合はどのように考えているか。

**町長** 浜中漁協は、新規着業者の受け入れを考えていない。散布漁協は、新規着業者の受け入れを考えている。

**加藤** 新規に漁業者を増やす点で、両組合の考えが一致していないのは問題だ。

浜中町は、子育て中の皆さんに18歳の高校卒業までの医療費の無償化、農漁業・商工業の後継者に就業交付金を設け、今回の議会で小中高等学校の給食費の無償化を決定することになっている。浜中の産業を応援する施策である。

浜中町として新規の漁業者の受け入れを整えるべきと思うがどうか。

**町長** 大変難しい課題だ。漁業は、しつかり継承されている。今後、組織の中でもさまざまな場においても話題にしていきたいし、町では総合計画も作っている

が、それに沿ってできるところからやっていきたい。

**加藤** 最近漁業を職に目指してきた人は何人いたか。

**町長** 漁業後継者を目指して就業交付金を受けた人数は、両漁協で平成29～令和2年度までの4年間で新卒者17人、Uターン者12人。令和3年度は、新卒者3人。

また、散布漁協に新規着業者が入ってくる予定。

**加藤** サラリーマンが脱サラし漁業者になるにはどうしたらいいのか。

**町長** まず、浜中漁協の新規組合員になるのは今の段階では難しい。散布漁協は、散布地区に居住し、年間120日以上3年

間漁師の下に従事した後、組合員資格審査委員会で審査され理事会に諮られ決定される。



昆布の好漁場を求め一斉出漁

# 一般質問

田甫 哲朗 議員



問

## 最大震度7への 内陸地区での備えは

答

## 関係機関との 協議・連携を強化

**田甫** 地震発生の季節・時間帯によっては、複数の火災発生が懸念されるが。

**町長** 津波警報により消防署員と車両は湯沸山へ避難することから、内陸部での火災は消防団が所有する消防車両での対応となる。

**田甫** ケガや火傷の程度によっては救命士による処置の必要性から、茶内分遣所へ救命士と救急車両の配置

が求められる。

**町長** 平時の救急活動は署員数からも実施はできないが災害時の対策として車庫などの施設整備も含め消防署と協議検討したい。

**田甫** 停電時の避難施設での暖房対策は。

**町長** 小型発電機や電池式ストーブを備蓄しているが、建設業協会との災害協定により発電機やジェットヒーターなどの提供で対応する。

**田甫** 下水道などのトラブルによりトイレが使用できない場合の対策は。

**町長** 下水道に接続している茶内コミセンと浜中改善センターには簡易トイレを備蓄している。今後、汚物保管場所の対策を検討する。また、一般家庭へも簡易携帯トイレの普及啓発活動を進めていきたい。

**田甫** 避難施設での多目的トイレの設置状況は。

**町長** 内陸地区5カ所の施設で多目的トイレが無いのは茶内コミセンとトレセンである。今後、利便性向上から改修を検討したい。

**田甫** 人工透析を受けている人の治療継続体制は。

**町長** 現在、透析通院されている13人は厚岸と釧路の病院で治療を受けている。災害時には、釧路保健所と連携し受け入れ可能な医療機関の情報共有を図る。搬送方法は、ヘリコプターでの搬送を想定し消防との連携や自衛隊への派遣要請での対応となる。

**田甫** 防災講演会で釧路・別海駐屯地の部隊はそれぞれ釧路市・根室市へ派遣され町村へは帯広など内陸の部隊が派遣されると聞いた。地理的条件や要支援者の状況など自衛隊と情報を共有し連携強化を図る考えは。

**町長** 自衛隊からは、防衛会議や国民保護協議会の場を通じて意見・提言などを受けている。今後は、防災訓練への参加を要請するなど情報共有も含め連携強化を図っていきたい。



更新された高規格救急自動車

# 一般質問

小松 克也 議員



**問** コロナワクチンの  
マイナンバーの使用は

**答** 本人確認の  
一つとして使用できる

**小松** コロナワクチン接種の浜中町の現状と接種を受けない人への対応は。また、マイナンバーカードの使用は。

**町長** 予防接種法が一部改正されて、本町においても福祉保健課が主管となり、浜中診療所・消防署など関係機関と連携しながら準備を進めている。ワクチン接種を受けない人への対応は、受診書の中で同意確認があ

り、本人同意で行う。ワクチン接種は、感染予防・重症化を防ぐためのもので、町広報・回覧・ホームページなどを使いながら、正確な情報発信と接種の励行を行っていく。マイナンバーカードは、ワクチン接種受付の際は、保険証・免許証などと同じように、本人確認の一つとして使用できる。

**問** エゾシカ被害への  
対策は

**答** 関係機関と  
連携して

**小松** シカとの事故を防ぐために柵・トンネル・橋など造れないものか。

**町長** こういった深刻な状況を、平成28年度から主要懸案事項として、暮帰別から柵町地区にかけてのシカ進入防止柵の設置を道に要望し続けているが、未だ設置に至っていない。より一層深刻な状況を伝え、今後も道に要望していく。

**小松** エゾカンゾウなどの食害は国定公園昇格に向けて観光客の誘客促進を見据えた事業展開にも影響があるのではないか。

**町長** 湿原全体を電気柵で覆うのは、現実的には難しい。湿原は、鳥獣保護区と繋がっており、シカの駆除もできない状況であり、国道沿いのシカ進入防止柵も、生態系に乱れが出て、他の生物全体にも影響があるのではと懸念する意見もある。琵琶瀬・仲の浜・新川地区の電気柵設置部分の



エゾシカの食害が懸念される湿原

植栽は守られており、この現状を維持したい。

**小松** 湯沸山にもシカが入り込み増殖している現状は。

**町長** 湯沸地区は銃使用禁止区域のため、令和3年度に環境省に申請をし、くくり罠の許可をとり、湯沸地区でのシカの個体数を完全にゼロにするという基本的な考え方で臨みたい。

# 一般質問

渡部 貴士 議員



問

移住促進として  
テレワークの誘致を

答

光回線整備後に  
検討したい

**渡部** 観光旅行は将来の安  
住の地を探す視察ともいえ  
る。  
新型コロナウイルス感染  
症対策として、地方で働い  
ていてもテレワークで都会  
と同じような仕事ができる  
ことが認識されて、人口の  
地方分散が促進されている。  
国定公園に制定されるこ  
とやラッコの営業によって  
当町の宣伝がなされ、光回



霧多布湿原を望むWi-Fi完備のカフェ

**町長** 現在は事業計画もな  
く、光回線が整備された後  
線網が整備されることで、  
移住定住に繋がる千載一遇  
の好機と思うが、テレワー  
クの誘致や受け入れに向け  
た準備は。

に企業誘致などを課題とし  
て取り扱っていききたい。  
**渡部** 休暇を楽しみながら  
仕事をする「ワーケーション」  
は、家族連れで長期滞  
在向けの新しい働き方とし  
て注目されている。空き家

対策と合わせて検討してみ  
ては。  
**町長** 空港からのアクセス  
など不便な点もあるので、  
需要が多いとは思わないが  
今後の検討材料とする。  
**渡部** エコツーリズムとは、  
観光業の成立と資源の保護  
に地域振興の融合を指す観  
光の考え方であり、地域が  
持続可能になるようさまざ  
まな側面で地域に還元され  
る仕組みのことである。  
長きにわたって国定公園  
化を要望してきたが、ビジ  
ョンや利用計画はあるか。  
**町長** 現在のところ具体的  
なビジョンはない。  
自然環境の保全と適正な  
利用促進をするための公園  
計画書を各自治体と連携し  
て作成している。  
**渡部** 地域の「稼ぐ力」を引  
き出すとともに、地域への  
誇りと愛着を醸成する「観  
光地経営」の視点に立つD  
MO(観光地域づくり法人)  
化への動きは。  
**町長** DMOではなく、町  
づくり会社設立に向けて準  
備委員会を立ち上げる方向  
で検討している。

# 真美々美

霧多布高等学校  
令和2年度卒業

澤山 陸斗



私は、霧多布高等学校で様々なことを勉強させていただきましたが、特に印象に残っているのが「浜中学」です。浜中学では、浜中町について「知る」「調べる」「発信する」の3つのテーマに分け、勉強してきました。1年次では、浜中町について知ることを目的として浜中町の特産品を用いたピザ作りや、ハーゲンダッツジャパン様、浜中漁業協同組合様による講話を聞き、町の魅力を深く知ることが

できました。

2年次では、「浜中町民のより良い生活」に着目していくつかの班に分かれて町民の方々にアンケートを取り、浜中町の取り組みや課題について調べ、意見を交換しました。

そして3年次には、霧多布高等学校の体育館で浜中学発表交流会を実施し、浜中学で学んだ3年間のまとめを松本町長、佐藤教育長と在校生の皆さんに発表しました。

「浜中学」では、1人ひとりが浜中町の未来の姿について考えを深めました。

浜中町の魅力はたくさんありますが、その中でも私は霧多布湿原を代表とする雄大な自然が、特に大きな魅力だと思います。海や山など多彩な自然に囲まれながら、恵まれた豊かな食料を源として今日まで私たちは成長してきました。津波や土砂災害など自然災害の危険性もある中で、自然と私たち町民が安全に共存して

いくことが、私の思う浜中

町の未来の姿です。浜中学を勉強していくなかで新たな発見もあり、町への愛着はさらに強くなったと感じます。浜中学をはじめ、霧多布高等学校で学んだことは、卒業した私たちやこれから社会に羽ばたいていく霧多布生にとってきっと大きな力になると思います。私たちに学ばせる環境を作ってくださった地域の皆様方に感謝申し上げますとともに、これからも引き続き、後輩たちへのご支援、ご協力頂くことをお願い申し上げます。

- 揮毫 書道部2年A組 川村 梨乃さん
- 読み方 しんぜんび
- 意味 完全なる善と美のこと。



## 町のトピックス

街の景色が一変！

3月16日撮影



防災機能を備えた役場新庁舎3階からの眺望は素晴らしい。遙に望む山並みや扇型に広がる霧多布湿原は圧巻である。眼下には、市街地の全景が見られ、旧庁舎の解体整地や防潮堤嵩上げ工事も進み、街の景色が変わりつつある。浜中湾では、今が旬のホッキ貝消費拡大に努めよう。

町のトピックス(話題)を募集します!

この欄に掲載するまちの季節の写真をお寄せください。次回の発行は令和3年7月15日です。

ご応募はこちらへ 浜中町議会事務局 E-mail: gikai@town.hamanaka.lg.jp TEL: 62-2265